

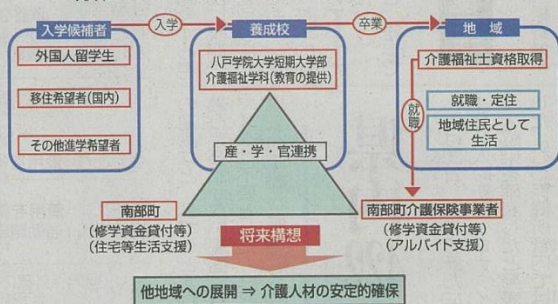
南部から国際介護人材を

町、八学大など連携 初の留学生受け入れ



介護人材確保に向けた産学官連携の第1号として南部町に到着したレさん（中央）と工藤町長（右から3人目）ら関係者

青森なんぶモデルによる介護人材確保・育成スキーム



資格取得、生活支援

レさんはベトナムの首都「ハノイ出身。日本語が話せる。南部町」
 「経験があり、ビジネスレベル」
 「提供の町内宿舎に滞在し、八戸学院大学短期大学部に通い介護等の資格取得を目指す。」
 同大・短大として、産官

南部町と八戸学院大学・同短期大学の連携協定に基づく国際介護人材育成の第1号留学生として、ベトナムからレ・ティ・ゴック・ディエップさん(26)が来日し20日、滞在先となる同町の工藤祐直町長を訪問した。新型コロナウイルスの流行で来日が遅れたが今後、町と同大学・短大のほか、卒業後の就職先となる特別養護老人ホーム「ハピネスなごわ」を運営する社会福祉法人「ファミリー」（本部・五戸町、佐藤和夫会長）が連携し、資格取得や生活を支援する。

（珍田秀樹）

学3者の枠組みで留学生を受け入れるのは初で、3年がかりの取り組み。介護人材の確保・育成に向けた「青森なんぶモデル」は、留学生以外に国内の移住希望者らも対象にしており、世界的な高齢化の課題解決手段として期待が高まる。同大・短大では介護人材確保に向けた留学生らを今後

「と短大の赤羽卓朗教授は語る。レさんは19日夕方に南部町に到着。町が準備した宿舎に落ち着いた。以前の留学時に介護のアルバイトを経験しているだけに「大変な仕事なので正直不安もあるが、両親が家族も賛成してくれたので頑張りたい」と話す。

工藤町長は「グリーンツーリズムでも外国人を受け入れているが、介護人材も含め幅広く対応し活躍の場を用意したい」と話す。町

は最大12人が暮らせる住宅を用意済みで、すぐ近くに外国人支援や地域住民との交流拠点となる「町国際交流センター」も整備している。ファミリーは年内にミヤマーからの10人を技能実習生として受け入れる予定で、うち6人は県南を拠点とする。